

# 2008 年度 年次報告書

## Annual report 2008-09



2009 年 5 月

特定非営利  
活動法人

西浜サーフライフセービングクラブ

# 目 次

1	クラブ概要 .....	1
2	クラブビジョン .....	3
3	クラブトピック .....	4
4	2008 年度活動概要 .....	9
5	パトロール委員会レポート .....	12
6	教育委員会レポート .....	16
7	競技委員会レポート .....	18
8	イベント委員会レポート .....	21
9	事務局レポート .....	23
10	サポート企業一覧 .....	25



## 1. クラブ概要

設立趣旨：このクラブは、藤沢地域の海水浴場及びプールの安全指導、監視、人命救助を通じ、ライフセービング活動の普及を図るとともに、ビーチクリーン活動による地域社会への貢献や、ジュニアライフセーバー教室開催などによる、青少年の健全な育成を目的としています。

名称：西浜サーフライフセービングクラブ  
 設立：1963年 【日本初のライフガード組織】  
 2003年 NPO 法人取得  
 活動拠点：藤沢市片瀬西浜海岸 鵠沼海岸 片瀬東浜海岸 江ノ島岩屋  
 事務局：〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸 3-15-22 メゾン西浜 101  
 Tel&Fax :0466-23-5353  
 e-mail :info@nishihama.org URL :www.nishihama.org

会員：正会員 :154名(2009年3月現在)  
 賛助会員 :1団体,3名 計16口(2009年3月現在)  
 ジュニア会員 :65名(2009年3月現在)

役員：代表 土志田 仁  
 監事 宮崎 尊  
 理事 渡部 秀人(会員管理担当)  
 澤田 喜生(総務担当)  
 遠藤 大哉(競技担当)  
 入谷 拓哉(教育担当)  
 村川 新(パトロール担当)  
 風間 隆宏(事務局担当)  
 三浦 秀樹(イベント担当)

委員長：イベント委員長 三浦 秀樹(兼務)  
 パトロール委員長 篠 岳瑠  
 競技委員長 植木 将人  
 教育委員長 新山 真以  
 東浜パトロールキャプテン 荒井 洋佑  
 西浜パトロールキャプテン 渋谷 錬



図 2-1 西浜 SLSC クラブ活動拠点図

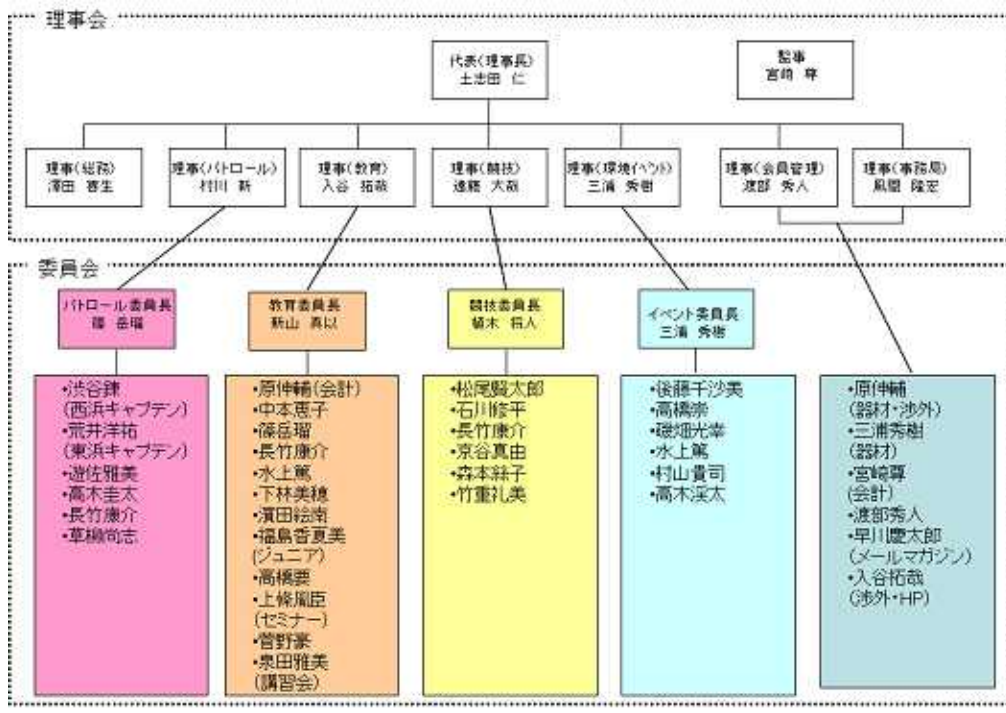


図 2-2 2008 年度西浜 SLSC 組織図

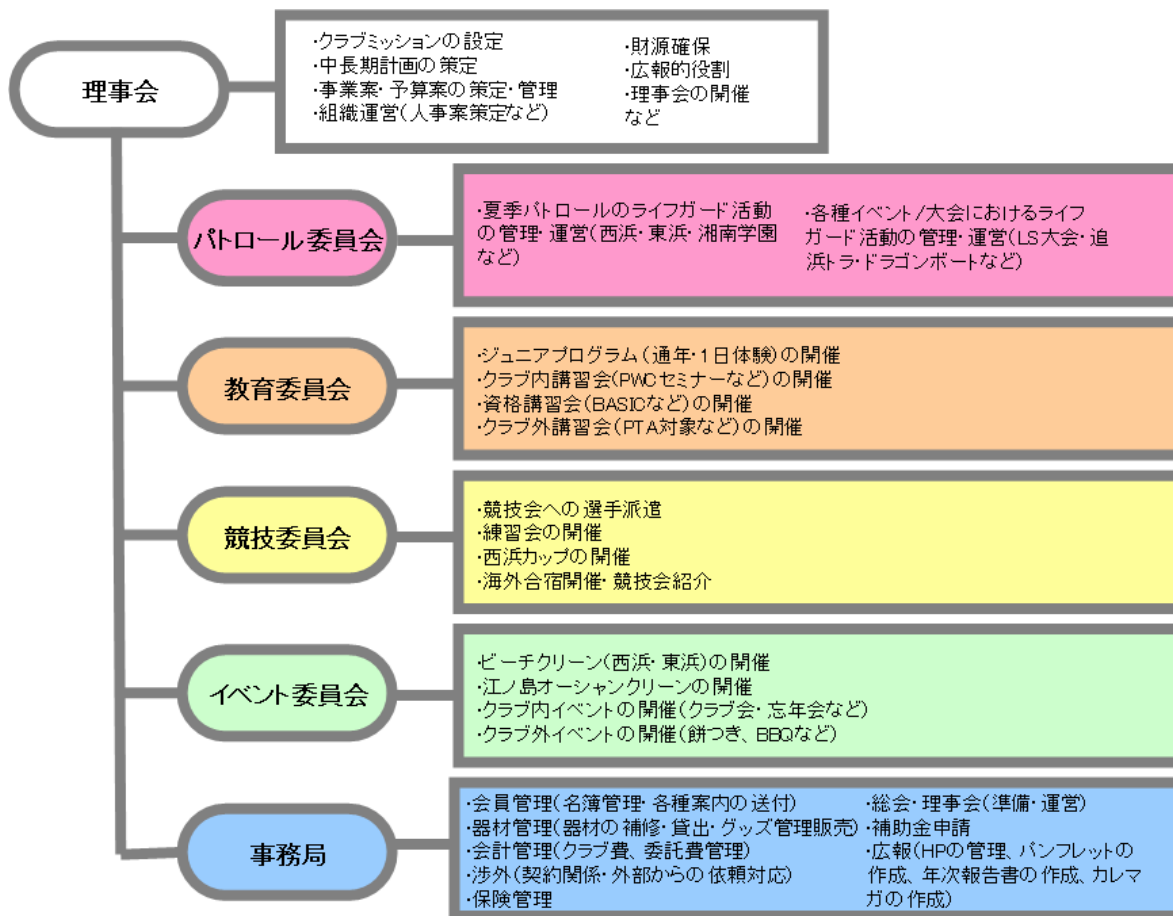


図 2-3 西浜 SLSC 活動概念図



## 2. クラブビジョン

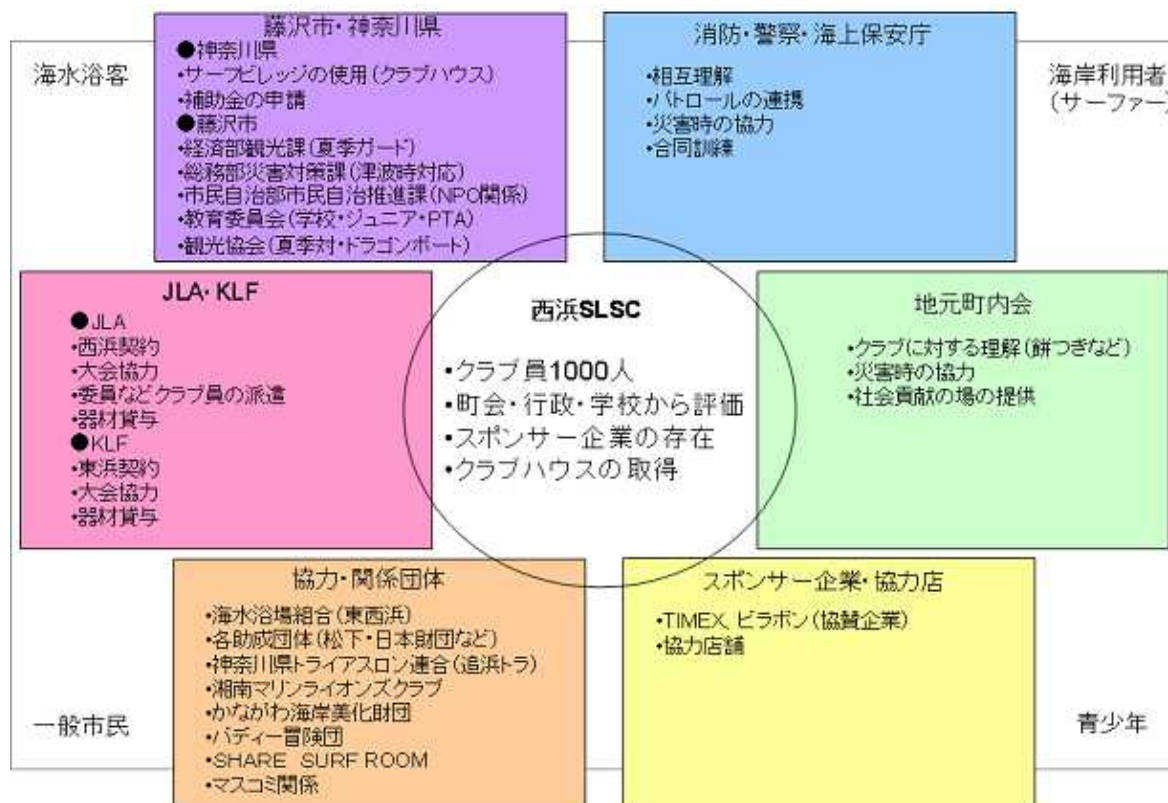


図 3-1 西浜 SLSC クラブビジョン

西浜 SLSC は、藤沢地域にライフセービングを普及するために、各関係機関と協力して

- クラブ員 1000 人
- 人材確保・人材育成
- 町内会・行政・学校から評価
- 各関係機関との関係強化
- スポンサー企業の存在
- LS の地位向上・活動充実
- クラブハウスの取得
- 活動拠点の確保

をクラブビジョン(目標)に活動しています。



### 3. クラブトピック

#### トピック 1

Rescue2008 ドイツ大会に西浜 SLSC より日本代表として植木将人・高橋崇・長竹康介・遊佐雅美の4選手が、また代表監督として遠藤大哉、コーチとして入谷拓哉が参加し、ビーチフラッグス女子では遊佐雅美が優勝、男子では植木将人が準優勝を果たしました。



#### 【世界大会報告】 植木将人



(写真提供：JLA)

まず初めに私がライフセービング競技を続ける理由の一つは、自己のレスキュー技術、体力向上はもちろんですが、それはライフセービングの普及のためでもあります。そのNo1を決める世界大会に出場することというのは私にとって本当に大きな夢でした。私はビーチフラッグスとスプリント、リレーに出場しましたが、どのレースも非常にハイレベルな戦いでした。特にスプリントやリレーは同じ人間でありながら、どうしてこんなにも速いのか？と目を疑うようなレースでした。さらにオーシャンの選手までもが、ビーチスプリントを走りこなせるだけの走力や技術を兼ね備えていることには非常に驚きでした。日本はビーチが強いと言われていますが、

その時代はすでに変わりつつあるような気がしています。ビーチフラッグスの私の目標は世界の表彰台でした。決勝は夕方から夜にかけて行われ、会場は照明でライトアップされていました。ヨーロッパでは珍しくないようですが、私には当然初めてのことでした。観客席もビーチバレーのように階段型の観客席が設置され超満員でした。世界は凄い！ドイツは凄い！と感じながらも、決勝までにはかなりよい緊張感で試合に臨むことができました。幸運にも私は決勝最後のヒートまで勝ち進むことができ、最後はニュージーランドの新生、ベンジャミン・ウィルスとの一騎打ちになりました。実は私は昼間に前世界王者のモーガン・フォスター（NZ）に「ベンはスタートは普通、後半気を付けろ」とアドバイスを受けていました。そのモーガンの忠告通り、前半は私がリード 19.9mまで世界一はすぐそこにありました。しかし、後ろから攻めてきたベン最後のダイブで私の右脇からフラッグをキャッチ。私は一瞬頭が真っ白になりました。わずか 10cm で準優勝...。これが世界



でした。

日本でも同じですが、私はレース中でも意識していることがいくつかあります。それはフレンドシップです。私たちはレースの勝ち負けを競うだけではなく、例えレース中のパフォーマンス一つとっても常にライフセービングの普及に繋がっていると思うのです。つまり正しく普及するにはそこまで意識する必要があると私は思うのです。残念ながら、世界大会の舞台でも、ある海外の選手がインターフェアを審判に妄抗議する姿を見ました。また、負けても不満気に会場をあとにする選手もいました。その一人の行為だけで、「ああ、あの国のライフセーバーはこういう人たちなんだ」と思ってしまいます。私もそう思いました。ですから、日本のライフセーバーには絶対にそうあってほしくないと強く思っています。生命を救うスポーツというものは、人に安心感を与えるものであってほしいと思います。最後に私はこれからも世界で活躍できる選手でいられることが当面の目標です。また、次世代を担う未来のライフセーバーにも正しくライフセービングを伝えていきたいと思っています。ご声援ありがとうございました。

#### 【世界大会報告】 遊佐雅美

今回の世界大会は夏のガード期間の7月中旬、ガードメンパーが少ない中、世界大会に行く事を申し訳なく思った。でも皆が応援してくれ、居ない間もガード頑張るからと言ってくれた事が本当に嬉しかった。私にとっては8年振りの世界大会出場。そして西浜クラブ員となって初の世界大会出場だった。西浜からは、監督の遠藤さん・コーチの入谷さん・選手の植木君・長竹君・高橋君と多かったのが心強く嬉しかった。でもその反面、私には大きなとてつもないプレッシャーと重圧・不安が常にあった。この気持ちはレースが終わるまで拭い去る事が出来なかった。私の中で世界大会に行くことを決めた瞬間から最終目標を作りその中でもいくつかの細かい目標を設定した。8年と言うブランクは大きく、今まで参加していた海外の選手たちがほぼ変わっていた事。そして、参加選手は若い！！そんな時代の流れもプラスに考える事が出来なかった。



(写真提供：JLA)

プール競技（ベルリン）は、中国の選手が世界新記録を続出する中、日本チームも大健闘を見せた。リレー種目でA・B決勝に出場し、高橋さんのラインスローは6位と好成績を出し、次に2日後に控えていたサーフ種目に大きな力となった。チームの目標としていたワールドゲームズ出場の為にはトップ8を獲得する事。少しでも、チームの為にと思い最後まで諦めない全力でやり続ける事を常に念頭においてレースを行った。今回、私が出場した種目はビーチフラッグス・ビーチスプリント・ビーチリレー。ビーチフラッグスは夜の9時過ぎから決勝が行われた。その日のオーシャン競技が終わり、観客席に囲まれ海側に向



ってのレース．大画面で，常に自分達のレースを見られるようになっていた．オランダから平藤さんファミリーが応援幕を持って応援して頂けたのが最大のパワーとなった．最後の1本は全ての集中力を注ぎ4回目の優勝を獲得する事が出来ました．スプリントは10位・ビーチリレーはB決勝の7位．レースが終わりプレッシャーから開放された．ここまで頑張る事が出来たのも皆様の応援のお陰です．この場をお借り致しまして，お礼を申し上げさせていただきます．誠にありがとうございました．今後も現役を続けながら若手育成に向け頑張っていきたいと思っています．

#### 【世界大会報告】 長竹康介

Rescue 2008 世界選手権大会での私の目標はメダルを持って帰ってくることでした．2年前の Rescue 2006 は初めての世界大会で，正直何も分からず勢いでレースをしていただけでしたが，今回は何が必要か，レースのリズム等，少しだけ分かり準備をすることができました．結果としてはラインスロー6位，ボード6位，SERC4位とメダルを獲ることはできませんでした．しかしながら，SERCは3位と3点差，ボードはあと一波乗ることができれば2位集団に食い込めるレース展開でした．残念ながら目標にはとどきませんでした，表彰台をすぐそこに見ることができました．次，越えなくてはいけない壁としては良い目標を作れたかと思います．今後，私が超えるのか，学生が超えていくのか，ジュニアが超えていくのか分かりませんが．もし，また私にチャンスがあったら，メダルを確実に持って帰ってきたいと思います．

最後になりましたが，いつもみなさんのご支援ご協力ありがとうございます．クラブ会でもお話をさせて頂きましたがやはり帰って来る場所は西浜で，西浜の代表として世界大会に参加できることを誇りに思います．これからも宜しくお願い致します．



(写真提供：JLA)





## トピック 2

2007 年度西浜オブザイヤーに竹重礼美が、ジュニアオブザイヤーに内堀真綸が選ばれました。

### 西浜オブザイヤー 竹重礼美

正直に申し上げますと、私には恐れ多く少し重たく感じました。歴代の受賞された方々を振り返ると、「なぜわたしなのか?」と思わざるを得ませんでした。しかし、評価というのは自分ではなく他人がするものなので、評価して頂いたという事実を素直に受け止め、喜びたいと思い直しました。なるべく人前で目立たないようにと生きてまいりましたが、賞を頂くのはやはり嬉しい事です。少し自信につながりました。皆様、本当にありがとうございます。



私の立場柄、いろんな方に「いつもありがとう」と言われます。しかし、私が「ありがとう」と皆様に伝えたいです。「人の為によくそこまでできるね」ともたまに言われますが、それは違います。「人の為」というだけなら今まで続いていると思います。人それぞれ特技が違うように、私は自分ができているだけです。たまたま私のような関わり方をする人間がクラブ内に少なかっただけの事で、ライフガードとして一線に出て活動している方はすごいと思うし尊敬しています。自分が一線に出ていないにもかかわらず楽しく活動できているのは、皆さんがパワフルに活動している姿を側で見て、そこからパワーをもらっているからです。そしてなにより、私の関わり方を認めて受け入れて下さっているからです。さらには、自分が単にやりたくてしている事が結果的に誰かの為になっているのなら、それはとても嬉しい事です。

私は少し気が弱く、ライフガードメンバーをサポートするどころか、逆に心配ばかりかけています。休憩期間を長くとってしまうこともあります。しかし、私はクラブのメンバーと活動が大好きです。今後も私なりの方法でクラブに携わっていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



## ジュニア・オブ・ザ・イヤー 内堀真綸

私は、この賞をもらった時びっくりしました。まさかそんな賞をもらえるとは夢にも思っていなかったのですが、とても嬉しかったです。まだ、ライフセービングを始めて約2年。それまでも海に行って泳いだり遊んだりして海には親しんでいましたが、ライフセービングのことはよく知りませんでした。けれど今では、人と協力する事、海の大切さや怖さ、生命の尊さなど色々な事を知り、経験することができました。2007年の3月には、オーストラリア合宿にも参加させてもらい、ノースバーレーの子達に、大きな波の超え方も教わり、それからは、苦手だったボードにも、乗るのが好きに、また楽しくなりました。そして、向こうの子供達とも仲良くなれ、西浜に帰ってきたときには、知識も経験も友達も増えとてもいい思い出になりました。最後に私がこの賞をもらったのは、いつも私達を支えて下さり色々な事を教えて下さる先生方のおかげだと思いました。これからも、そういう先生方に感謝の心を忘れずに、そして将来、人の役に立て、みんなと協力できるような人になるためにも、この賞をもらった事を力にして、日々努力し、練習をがんばっていこうと思いました。





## 4.2008 年度活動概要

西浜 SLSC では、本年度もパトロール・教育・競技・イベントを柱に多様な LS 活動を積極的に行った。以下にその概要を報告する。各活動の詳細レポートは、次章以降を参照されたい。

**パトロール**：夏季期間（7-8 月）に藤沢市片瀬西浜・東浜・江ノ島岩屋でパトロール活動を行った。2008 年 7-8 月に藤沢市内の海水浴場を訪れた海水浴客は、前年より約 25.7 万人少ない約 407.7 万人（東浜：94.4 万人，西浜：311.4 万人，辻堂：18.2 万人）であった。パトロールキャプテンは、西浜は渋谷錬，東浜は荒井洋佑が務めた。延べパトロール時間は、片瀬西浜・江ノ島岩屋で 9,199 時間（うちボランティア（無給）：662 時間），片瀬東浜で，4,270 時間（うちボランティア（無給）：361.5 時間）。またパトロール参加人数（1 日でも参加した人）は、片瀬西浜・江ノ島岩屋で 97 人，片瀬東浜で，57 人であった。残念ながら東浜で，8/3 に死亡事故が発生した。メンバー全員全力で警備した結果であるが，西浜 SLSC が東浜警備を開始してからの初めての事故であり，残念でならない。

夏季期間以外（5-6 月）の週末には，ボランティアパトロールを行った。さらに追浜トリアスロン（6 月），全日本 LS 選手権（片瀬西浜：10 月）・江ノ島ドラゴンボートレース（境川河口：10 月）への大会運営協力，湘南学園のプール授業のガード（6-7 月）を行った。新しい試みとして，東浜で開催されたオープンウェータースイム（8 月）を行った。さらに，9 月-3 月までサーフビレッジを拠点としたライフガード設置のテスト事業を行った。次年度以降，年間を通した正式なライフガード設置にむけ期待が持たれる。

**教育**：年間を通したジュニアプログラムは，年々その活動規模を拡大し，本年度の登録者は 65 名，延べ参加者は 719 名までになった。年間 23 回（月 2 回）のプログラムは，海の基本的知識から安全な遊び方，大会への参加，三角巾やプールでの指導など多岐に渡る。8 月には茨城県大竹 LSC（参加者 13 名，スタッフ 4 名）で，3 月にオーストラリア（参加者 9 名，スタッフ 3 名）で合宿を行った。また新しい試みとして保護者を 11 月に開催し，プログラムに対する意見交換を行った。次年度には，ジュニアメンバーの最上級生が，ジュニアを卒業し高校生になる。ジュニアからガードメンバーへ繋がる大きな一歩を踏み出しつつある。

短期間で行う体験プログラムも例年通り行い，夏季期間を中心に 13 回，参加者は 1,474 名にも達した。クラブ外向けの講習会として日本ライフセービング協会（JLA）公認の BASIC サーフライフセーバー講習会（21 名参加），CPR 講習会（35 名参加）を開催した。さらに昨年度の引地川河口での事故を受けて，藤沢市の湘洋中・片瀬中の全校生徒に対して海の安全に関する講演会を行った。クラブ内向け講習会として，IRB/PWC セミナーを 3 回開催。JLA インストラクター養成講習会にも積極的に参加し 2 名の新インストラクター（植木将人・荒井洋佑）が誕生した。



**競技**：今年も全日本選手権を始めとする数々の競技会に、多くのメンバーが選手としてまた、スタッフとして参加した。今年度の特筆すべき点として、10月の全日本LS選手権に総合優勝、3連覇（合計8回目）を達成したことである。波の小さいコンディションであったが、オーシャンウーマンリレー（新山、勝俣、京谷、遊佐）で3位入賞やビーチフラッグス女子（16連覇）及びビーチスプリント女子で2冠達成（遊佐雅美）、ビーチリレー（柿崎、植木、松澤、北矢）の優勝など、9個のメダルを獲得し大会を盛り上げた。

8月にドイツで開催された世界大会には、日本代表として植木将人・高橋崇・長竹康介・遊佐雅美の4選手が、また代表監督として遠藤大哉、コーチとして入谷拓哉が参加し、ビーチフラッグス女子では遊佐雅美が優勝、男子では植木将人が準優勝、ラインスローでは高橋崇が6位（日本記録更新）入賞など、日本チームに大きく貢献した。さらに9月に千葉御宿海岸で開催された三洋物産 インターナショナルライフセービングカップ2008には、日本代表として北矢宗志・長竹康介・遊佐雅美、またU22日本代表として勝俣閑、さらに代表監督として入谷拓哉が参加し、個人種目ではビーチフラッグス女子で遊佐雅美が優勝、男子で北矢宗志が準優勝を果たした。1月に発表されたJLA強化指定選手には、強化指定Aに長竹康介・北矢宗志・植木将人・勝俣閑・遊佐雅美が、強化指定Bに京谷真有・谷中健文が選出された。

ジュニアの大会にも積極的に参加し、8月に東浜で行われた日本ライフセービング協会（JLA）主催のジュニアライフセービング競技会では、天候の関係でビーチフラッグスのみの開催となったが、各年代で表彰台の独占を含む10個のメダルを獲得した。日々のトレーニングも全日本前の西浜合宿や冬場にはプールでの朝練を行っている。

**イベント**：毎月第2日曜日に鵜沼海岸・東浜で行っているビーチクリーン活動は9年目を向かえ、ビーチクリーンは、サーファーや地元住民など多くのメンバー以外の参加が見られ地元に着している。ビーチクリーン後にAEDセミナーなども行い、今年度の延べ参加人数は1,370人に上った。8月には藤沢市市民活動推進センター主催の高校生ボランティア体験、DHL社の社員対象のビーチクリーンイベントを受け入れ、同時に海の安全に関するレクチャーも行った。

さらに、クラブの特徴を生かしたオーシャンクリーン（ボードやカヌー等で江ノ島までパドリングして行き徒歩ではいけない場所の清掃）を6月に行い、参加者は80名であった。クラブ内イベントとして、7月に激励会、8月にクラブ会、12月に忘年会を開催しメンバーの交流を深めた。さらに地元西浜町内会の協力を頂き1月に餅つき大会を開催した。ジュニアも含めた多くにメンバーや地元住民も参加し、毎年恒例の行事になりつつある。

**事務局**：今年度は、渉外・会計・器材・会員管理業務に担当者をつけ、複数名で事務局運営を行った。会計処理の効率化、体外的な報告などは改善されてきたが、会員向けの情報提供などは、まだ不十分な面がある。昨年度の引地川河口での事故を受けて、藤沢市に



市民活動団体提案協働事業として市内の小中学校を対象としたジュニアライフセービング教室（1時間程度の講演）の提案を1年間かけて行い、採択された。次年度は、まず18校で開催予定である。これはJLAや神奈川県支部の後押し、さらに今までの多くのメンバーの活動実績が評価された結果である。2003年にNPOにしたときの夢が一つ実現する。また12月には、藤沢市の海老根市長へ表敬訪問を行い、ライフセービングに理解を深めて頂いた。さらに12月のJLA納会において、深山元良と遠藤大哉がライフセービングオブザイヤーのスポーツ賞を受賞した。

上部組織であるJLAでも多くのメンバーが活躍している。理事に土志田仁、ジュニア教育委員会委員に植木将人、学生委員会委員長に泉田昌美、競技運営・審判委員会委員長に深山元良・委員に泉田昌美、競技力強化委員会委員長に遠藤大哉・委員に入谷拓哉・遊佐雅美、環境委員会委員に堀口敬洋・風間隆宏、国際委員会委員長に相澤千春、広報事業委員会委員に風間隆宏、支部委員会委員長に土志田仁、ILSアジアパシフィック総会&競技会実行委員会に、相澤千春・深山元良・遠藤大哉・泉田昌美が参加している。さらに外部委員として総務省消防庁主催「地域の救助活動の体制強化に関する調査・研究会」の委員として土志田仁が参加し、海辺での人命救助活動を行う民間団体であるライフセービング団体と救助行政との連携等の可能性について調査・研究を行った。

従来よりサポートを受けているBILLABONG様からは大会ウェア、TIMEX様からは時計・テントの提供を今年度も引き続き頂いた。さらにビーチクリーン時には毎回イースト様よりコーヒーのご提供頂いた。今年度より辻堂サーファー通りにある「GUARD SHOP」様、鵜沼海岸にある「Days Kugenuma」様がサポート店に加わっていただいた。上記以外にも多くの協力店のサポート（協力店一覧参照）や様々な方々の有形無形のサポートを受けた。ここに記して深甚なる謝意を表したい。



サーフボード



IRB/PWC セミナー



## 5. パトロール委員会レポート

まず、2008年8月3日に亡くなられた方のご冥福を祈りたい。私たちがライフセービング活動をしている限り忘れてはいけない出来事である。ライフセービングを続けていく限り、背負っていかねばならないことである。私は、この出来事を忘れずに人生の糧とし、二度と起こさぬように努力しつづけることが最大の供養であると思うし、西浜 SLSC の使命だと思う。亡くなられた方の命のバトンを皆で次世代に渡していきたい。決して風化させることなく。

では、次世代にどうやって伝えるのか？まず、どうすれば良いのか？ 体力をつける？技術を磨く？知識を増やす？知恵を磨く？どれも違うと思う。これらは、続けることでおのずと身に付くことだから。何よりも大事なことは土台づくりである。挨拶や礼儀を重んじたり、清掃活動を行ったり、人をおもいやることを学ぶことで人間として必要な土台を作ることである。常に謙虚な姿勢で物事に取り組むことで土台ができる。土台がしっかりすることで様々なものが積み上げられるはずである。決してライフセービング活動は華やかで、カッコいいものではない。地味で辛い活動である。でも、ライフセービング活動は素晴らしい。なぜなら、いつも自分のことよりも人のことを優先に考えるからである。人のために流す涙や汗は何よりも輝いて、綺麗だと思う。その対象は、海に関わる全ての人々、そして共に未然事故防止のために努力する仲間である。数えきれない人々との出会いと思いが交錯する場所での活動。決して自分一人ではできないし、自分のことだけ考えていたら出来ない活動である。自然への畏敬の念、人の命の重さと素晴らしさを実感できる活動である。

私はライフセービングの原点である救助活動を通して、社会貢献していけるクラブでありたいと思う。そのためにはやはりクラブ員ひとりひとりが原点回帰していただきたい。バランス感覚の求められる現代だからこそ忘れないで欲しいと思う。中心は救助活動である。決してぶれてはいけないことである。口で言うのは、誰でもできる。ちょうど今年から西浜初の生え抜きライフセーバーが誕生する。是非、救助活動するカッコいい大人の背中を次世代の子どもたちに見せてほしい。そして、生命を守ることのプライドと責任を伝えてほしいと思う。世知辛い世の中で純粋に人のために汗をかくことの素晴らしさを伝えて欲しい。そして、苦楽をともにすることで信頼できる一生の仲間にして欲しい。

最後にこの夏ともに汗と涙を流した仲間へ感謝、そして私たちの活動を支え応援してくれた方々に感謝の気持ちを伝えたい。パトロール委員会は今後も、一生に一度しか来ない夏に沢山のクラブ員の皆さんが最高の瞬間を過ごせるように活動を続けたい。

(文責：パトロール委員長 篠岳瑠)

**【西浜キャプテン】 渋谷 錬**

2008 年夏本当にお疲れさまでした。この夏は暑い日が続き、毎日お客さんが来て 7 月後半から厳しい日がお盆終わりまで続きました。そんな中無事故で守り切れたのは協力して下さった海の家の方々、サーファーの方々、ボディボーダーの方々はもちろんの事ですが、西浜のクラブ員の「力」であり、頑張った成果だと思います。7 月は社会人中心に 8 月は学生中心にガードをしました。台風が来て遊泳禁止になった日が 7 月に 1 日だけでしたが、お盆後半には鵜沼にカレントができ厳しいコンディションが続いたため、学生にとっては良い経験になったと思います。大阪体育大の学生が大阪から 10 人来て一所懸命にやってくれました。大体大生が大阪から新しい雰囲気を持ってきてくれ、勢いづきました。また、多くの先輩方が復活してくださり力強く、頼もしかったです。その中でもゴッツさん、本郷先輩のキラキラした笑顔が印象に残っています。東浜、西浜間でもメンバーの行き来がよりスムーズにできた夏でした。洋佑さんをはじめ、主に東浜に入っているメンバーにもたくさん助けられました。ありがとうございました。2008 年夏、西浜のみんなで守り切った夏です。キャプテン 2 年目の夏、社会人から学生まで団結できた良い夏でした。ガードは社会人の先輩方がいて、学生がいて、みんなのできるから楽しいし、充実します。これからも一夏に 1 日、もしくは 1 時間もかもしれませんが、浜に足を運んでください。ガードにこだわられる。熱くなれる西浜でいましょう！2ヶ月間ありがとうございました。

**【東浜キャプテン】 荒井洋佑**

本当に多くの方の支えがあり、2ヶ月間の熱い夏を乗り越えることができました。62 日間というパトロール期間の長さは初めてであり、まだまだ未熟な私には、正直、体力的にも精神的にも辛かったです。でも、大変だった分、そこでくじけずに一生懸命やった分、終わったあとの達成感は何より最高のものでした。この夏を通して、私自身また成長できたと思えましたし、自信にもなりました。今年の夏は、8 月 3 日には重溺事故が発生し、とても悲しく、悔しい経験をしました。ただ、そこから学ばせていただくことも多くありました。この事故を忘れず、今まで以上の努力をして、事故を未然に防ぐために、また、万が一事故があったときに、迅速かつ正確な救助ができるように、ライフセービング活動を続けていくことが私の責任であると勝手に思っています。私が東浜でキャプテンをやれたのは、多くの仲間や先輩方のおかげです。現場の人間が気持ちよく活動できるように、上の先輩方がどれだけ動いてくださっているのか、キャプテンをやってそのありがたみを強く感じました。感謝しています。本当に最高の夏がすごせました。私はこれからも西浜のクラブの一員として、西浜のクラブのために、そして、自分のためにも、一生懸命自分出来る限りのことをしていきます。2ヶ月間、本当にありがとうございました。



www.nishihama.org

info@nishihama.org Tel&Fax: 0466-23-5353

NISHIHAMA SLSC 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸 3-15-22 メゾン西浜 101



東浜パトロール



西浜パトロール



東浜パトロール



西浜パトロール



東浜パトロール



鶴沼パトロール



東浜パトロール



岩屋パトロール

【パトロール写真撮影：金井様】





表 6-1 西浜パトロール時間

番号	氏名	パトロール時間
1	篠 岳瑠	441.0
2	澁谷 錬	541.0
3	小林 俊	9.0
4	早川 慶太郎	87.0
5	原 伸輔	352.0
6	松尾 賢太郎	124.0
7	水上 篤	517.0
8	和田 幸太郎	151.0
9	石川 修平	70.0
10	高伊 重道	15.0
11	風間 隆宏	87.0
12	小嶋 大輔	4.0
13	後関 裕輔	28.0
14	中本 恵子	17.0
15	青木 清司	10.0
16	江泉 嘉文	9.0
17	長竹 康介	84.0
18	新山 真以	71.0
19	井原 洋平	45.0
20	柿崎 貴文	20.0
21	野村 嘉之	80.0
22	上條 胤臣	63.0
23	後藤 千沙美	114.0
24	森本 絲子	90.0
25	北矢 宗志	20.0
26	渡部 健太	230.0
27	村山 貴司	13.0
28	谷中 健文	350.0
29	城間 盛隆	250.0
30	宮崎 あずさ	319.0
31	高橋 要	154.0
32	塚根 雄也	10.0
33	高木 溪太	20.0
34	勝俣 閑	40.0
35	澤田 哉	20.0
36	石原 進介	29.0
37	出来谷 啓太	10.0
38	菅野 豪	4.0
39	飯塚 剛志	75.0
40	岩田 季美子	10.0
41	五味 篤	9.0
42	松本 幸典	10.0
43	河波 浩晃	20.0
44	田辺 修一郎	25.0
45	今井 瑞葉	49.0
46	鬼塚 浩平	256.0
47	濱田 絵南	327.0
48	福島 香夏美	424.0
49	蛭間 龍矢	224.0
50	綾部 利伸	118.0

番号	氏名	パトロール時間
51	中川泰博	11.0
52	五十嵐 恒介	258.0
53	宮坂 耕平	233.0
54	勝田 浩輝	183.0
55	小川 雅彦	63.0
56	奥山 邦之	52.0
57	和田 哲郎	215.0
58	小宮 慎之介	108.0
59	足立 侑加理	138.0
60	中村 遥	138.0
61	富士松 慶	159.0
62	遠藤 涉	77.0
63	藤野 勇弥	20.0
63	荒木 麻佑	209.0
64	藤本 淳志	139.0
65	森 由衣	139.0
66	河西 亮佑	131.0
67	瀬戸 拓哉	51.0
68	田辺 溜	10.0
69	山下 友美恵	116.0
70	田中 史織	121.0
71	田中 友数	22.0
72	鈴木 智晴	19.0
73	渡辺 健	25.0
74	小泉 太郎	40.0
75	堀口 敬洋	5.0
76	金坂 光太郎	30.0
77	中村 新	3.0
78	橋本 有加	85.0
79	村川 新	62.0
80	宮崎 尊	30.0
81	小澤 知史	35.0
82	川島 勝	8.0
83	杉沼 進	20.0
84	三留 規誉	19.0
85	宮野 実	20.0
86	合田 光伸	5.0
87	熊坂 多恵	13.0
88	渡部 秀人	4.0
89	池袋 敬一	63.0
90	松木 至竜	10.0
91	鈴木 純平	10.0
92	石川 勉	5.0
93	寺本	8.0
94	澤田 喜生	3.0
95	吉田 佳世	3.0
96	林 健太郎	16.0
97	石井 克磨	10.0
延べパトロール時間		9199.0

表 6-2 東浜パトロール時間

番号	氏名	パトロール時間
1	荒井 洋佑	549.5
2	青木 清司	66.5
3	石川 修平	154.0
4	米田 豊土	68.5
5	三浦 秀樹	175.5
6	草柳 尚志	72.5
7	高伊 重道	66.5
8	小林 俊	7.0
9	伊勢 拓哉	30.0
10	大谷 貴志	12.0
11	江泉 嘉文	35.5
12	福岡 慶太	11.5
13	小嶋 大輔	12.0
14	磯畑 光幸	120.0
15	植木 将人	24.5
16	高橋 崇	20.0
17	遊佐 雅美	201.5
18	後関 祐輔	10.0
19	水上 篤	10.0
20	和田 幸太郎	67.5
21	京谷 真有	499.5
22	松澤 友樹	55.5
23	中島 章	50.0
24	村山 貴司	162.5
25	高木 溪太	100.0
26	塚根 雄也	50.0
27	渡辺 健太	30.0
28	澤田 哉	165.5
29	勝俣 閑	401.0
30	伊藤 光宏	75.0
31	出来谷 啓太	30.0
32	草柳 理香	14.5
33	泉田 雅美	14.5
34	吉田 亮平	15.0
35	平井 くにあき	10.0
36	上之園 友輔	40.0
37	伊藤 彩香	49.0
38	恩田 弘務	7.0
39	湯田 高由	30.0
40	今井 昭裕	19.0
41	川辺 慎一郎	10.0
42	綾部 利伸	60.0
43	五十嵐 浩介	20.0
44	勝田 浩輝	37.5
45	北村 幸	37.0
46	秋岡 雄一	20.0
47	佐藤 嶺太郎	10.0
48	新山真以	3.5
49	今井昭裕	7.0
50	亀井 斉	179.0
51	杉山 智	130.0
52	下林 美穂	171.0
53	石田 涉	5.0
54	須山 佳行	4.0
55	澤田 喜生	3.5
56	竹重 礼美	10.0
57	風間 隆宏	30.0
延べパトロール時間		4270.0



鵜沼パトロール



## 6. 教育委員会レポート

年間を通じて開催している「西浜ジュニアプログラム」においては、今年度から小学生は2学年ごとのクラス分けをして、指導員も担当者制を導入した。それにより、活動内容もその学年レベルに合った指導を展開することができ、10月に行われた「西浜CUP」（海でのレース形式発表会）では、個々の著しい成長を見ることができた。その他、8月には茨城県にある大竹海岸にて合宿を開催し、普段とは違った海での練習、そして他クラブとの交流を深めることができた。

また、「体験型プログラム」においても、学校からの依頼が大変増加し、一度の講習でより多くの方にライフセービング学習を展開することができた。毎年地道な活動の積み重ねによって、依頼がたくさん入るようになったことは着実な成果の証である。ただ今後、藤沢市内の学校全てにライフセービング教育を展開していくことが目標であるため、更なる指導員の確保と指導内容の充実が早急に必要である。

資格取得講習会では、恒例となったベーシック講習会で募集定員を満たし開催することができた。また活動予定に盛り込まれていた資格更新講習会は、開催できなかったので次年度はぜひとも開催したい。講習会開催により、新しいクラブ員獲得へのきっかけ作りとなるため今後も積極的に取り組んでいく必要がある。また、CPR講習会は一日だけの開催で体力を必要としないため一般成人よりニーズが大変多い。一次救命者を一人でも多く育てることを目指し次年度も普及に努めたい。

（文責：教育委員長 新山真衣）



体験ジュニアプログラム



明治中学校での講演会



表 7-1 年間ジュニアプログラム開催一覧

2008年度			
日程	場所	内容	参加者数
4月13日	サーフビレッジ	ビーチクリーン・オリエンテーション	47
4月27日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	42
5月11日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	22
5月25日	茅ヶ崎ササンビーチ	大会参加	29
6月8日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	22
6月22日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	29
7月13日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	40
7月27日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	29
8月10日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	30
8月24日	片瀬東浜海岸	大会参加	33
9月14日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	34
9月28日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	30
10月12日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	30
10月26日	片瀬西浜海岸	海でのレクチャー	38
11月9日	相模原グリーンプール	プール大会	26
11月23日	アクラブ藤沢	スイム練習	34
12月14日	サーフビレッジ	応急手当	26
12月21日	アクラブ藤沢	スイム練習	34
1月11日	山本公園	もちつき	24
1月25日	アクラブ藤沢	スイム練習	23
2月8日	サーフビレッジ	心肺蘇生法	33
2月22日	アクラブ藤沢	スイム練習	30
3月8日	鶴沼公民館	修了式	34
延べ参加者数			719



年間ジュニアプログラム（初日）



大竹合宿

表 7-2 各単発プログラム開催一覧

2008年度			参加者数
5月28日	神戸市小部中学校	ビーチプログラム	60
6月16日	小糸小学校	プール指導	100
6月19日	亀井野小学校	プール指導	100
6月24日	湘南台小学校	プール指導	90
7月3日	明治中学校	講演	300
7月9日	湘南学園中学校	サーフ・ビーチプログラム	9
7月17日	湘洋中学校	講演	700
7月23日	腰越小学校	サーフ・ビーチプログラム	20
8月5日	アクラブ	ライフセービング教室	12
8月16日	B&G財団海洋クラブ	サーフ・ビーチプログラム	10
8月20日	片瀬中学校	ライフセービング教室	10
8月21日	東亜建設工業	講演&レスキューゲーム	50
9月14日	片瀬公民館	着衣泳教室	13
延べ参加者数			1474



オーストラリア合宿

表 7-3 資格講習会開催一覧

2008年度			参加者数
5月22日	CPR講習会	小糸小学校教職員対象	30
5月24日	CPR講習会	アメリカンスクール教職員対象	5
7月(5日間)	ベーシック講習会	一般対象	21
延べ参加者数			56

表 7-4 IRB/PWC セミナー開催一覧

2008年度			参加者数
2月22日	第1回IRB・PWCセミナー	メンテナンス	2
3月7日	第2回IRB・PWCセミナー	メンテナンス	7
3月8日	第3回IRB・PWCセミナー	海での実技	11
延べ参加者数			20



オーストラリア合宿



## 7. 競技委員会レポート

今年度も JLA 主催の全日本プール選手権，全日本種目別選手権，全日本選手権，西日本プール選手権，また KLF 主催の神奈川選手権，神奈川プール選手権に参加をしました。そして今年も全日本選手権での総合優勝（3 連覇）や個人や団体競技での数々のメダルを獲得することができました。本当にありがとうございました。中でも今年度の全日本プール選手権では SERC（シュミレーテッドエマージェンシーレスポンス競技）で 2 位という結果を残すことができ、西浜の救助力を結果として表わすことができました。全日本選手権ではボードレスキューで 3 位，またチューブレスキューで 9 位という結果を残しました。このチューブレスキューでは東海大学 2 年の鬼塚浩平（レスキュー）と 1 年の五十嵐恒介（ペイシェント）がまずは西浜で社会人を差し押さえて選考会を勝ち抜き，全日本予選で準決勝を突破し決勝ヒートまで進むことができました。この学生の力は本当に大きな財産になると思います。来年も是非学生の活躍に大きく期待したいところです。レスキューと名の付く種目はまさに本番のレスキューを再現したものであるため，今後もメダル獲得を目指しチーム一丸となって力を入れていきたいと思ひます。

今年度は Rescue2008 ドイツ大会が開催され，西浜から日本代表選手として遊佐雅美，植木将人，高橋崇，長竹康介，監督に遠藤大哉，コーチに入谷拓哉の 6 名が参加しました。また，JLA 第 3 期強化指定選手には，強化指定 A に長竹康介・北矢宗志・植木将人・勝保閑・遊佐雅美が，強化指定 B（U23）に京谷真有・谷中健文が選出されています。今後も日本を代表する選手を育成し，西浜から日本代表を選出できるようさらにレベルアップを図りたいと思ひます。

一方，選手が万全な環境の中でレースができるためには，必ずそれをサポートして下さる方々がいまひます。それが審判員やスタッフで参加して下さる方々です。審判員ではほとんどの試合に泉田昌美さん，小笠原哲也さん，亀井齊さんが参加して下さいます。依頼することもあります，ほとんどは自ら参加されています。また，全日本選手権では西浜職人組合（NSK）が前日準備から試合当日の安全課を担当して大会を支えて下さいます。西浜が総合優勝できるのは，地元の漁師，サーファーなど海を楽しむすべての方々の理解と協力，そして地元開催に向けご協力くださったすべての方々のライフセービングに対する理解と支えで得られたものだと思ひています。本当に感謝しています。ありがとうございました。

このような沢山の方々から期待されたライフセービングの競技とはどうあるべきなのかと私は最近よく考えています。もちろん結果も大事です。ただし，本当に大切なのは結果よりも，一つのことに対してどれだけのプロセスがあるのか。そして，競技の No.1 はレスキューの No.1 と言えるよう努力を惜しまないことだと私は思ひます。選手によっては生まれ持った才能もあるかもしれませんが。でも西浜が目指すのは人から（他者から）歓迎されるプレイやパフォーマンスあるいは勝ち方を持っていないかなら思ひます。どん



なに速くてもどんなに波乗りがうまくても、努力せずに出た結果を誰が祝福してくれるのでしょうか？ましてやライフセービング競技という生命を救うスポーツと題された競技会の中で競技者のあり方はまさに真のレスキューアスリートであるか否かを問う大会なのだとして私は理解しています。

オーストラリアを始めとする諸外国ではライフセービング競技は SURF SPORTS として確立されています。年月は掛るかもしれませんが、この生命を救うスポーツが人に感動と安心感を与えることができ、多くの人々に浸透することができたならば、日本の国も本当の意味で豊かになると私は信じています。これだけのものを背負うライフセービング競技のコンペティターは常に人としての規範であり、どんなスポーツにも負けなくらいのフェアプレイの精神と人を救うという使命感を強く持ったライフセーバーであってほしいと思います。その全日本総合優勝チーム西浜 SLSC のメンバーには誇りとプライドを持って、そのあり方を追求していく義務があります。常に人に優しく、謙虚な気持ちを持った集団である西浜 SLSC を目指し、これからも努力し続けていきたいと思っています。

(文責：競技委員長 植木将人)



全日本選手権（西浜）



表 8-1 2008 年度大会結果

全日本選手権(2008/10/11・12:片瀬西浜)	
ボード男子	3位 長竹康介 4位 荒井洋佑
ボード女子	5位 勝俣閑
サーフスキー男子	8位 松尾寛太郎 9位 入谷拓哉
サーフスキー女子	6位 新山真以
オーシャンマン	2位 長竹康介
オーシャンウーマン	7位 京谷真有
ボードレスキュー	3位 (長竹・荒井)
レスキューチューブ	9位 (後閑・鬼塚・五十嵐・渡辺)
オーシャンマンリレー	7位 (松尾・荒井・長竹・植木)
オーシャンウーマンリレー	3位 (新山・勝俣・京谷・遊佐)
ビーチスプリント男子	2位 北矢宗志 7位 柿崎貴文
ビーチスプリント女子	優勝 遊佐雅美
ビーチフラッグス男子	3位 植木将人
ビーチフラッグス女子	優勝 遊佐雅美
ビーチリレー	優勝 (柿崎・植木・松澤・北矢)
CPRコンテスト	B判定 (澁谷・柿崎)
チーム総合	優勝 西浜SLSC

神奈川室内選手権2008/11/6:さがみはらグリーンプール	
一般の部	
50マネキン女子	3位 京谷真有
100障害女子	8位 京谷真有
100マネキンキャリア ウィズフィン男子	3位 長竹康介
4×25Mマネキンリレー男子	3位(和田・荒井・石川・長竹)
ジュニアの部	
50障害(3,4年生の部)	優勝 皆川貴海 4位 渡辺太郎
50障害(5,6年生の部)	3位 松崎なつき 4位 上野真凜 5位 和田海人
50障害(中学生女子の部)	優勝 坂本佳凧子 2位 皆川綾菜 3位 相馬恵里
50障害(中学生男子の部)	4位 内堀真倫 2位 坂本陸 7位 見角凌介 8位 上野凌

西日本室内選手権2009/2/15:なみはやドーム	
50マネキン男子	6位 和田幸太郎
100マネキンキャリア ウィズフィン男子	2位 和田幸太郎

全日本種目別選手権2008/6/7・8:下田	
サーフスキー男子	優勝 長竹康介
サーフスキー女子	3位 新山真以
オーシャンマン	2位 長竹康介 3位 荒井洋佑
オーシャンウーマン	5位 新山真以 8位 京谷真有
ビーチフラッグス男子	優勝 北矢宗志 2位 植木将人
ビーチフラッグス女子	優勝 遊佐雅美
ビーチスプリント男子	2位 北矢宗志 8位 植木将人
ビーチスプリント女子	優勝 遊佐雅美

神奈川オープンサーフ(2008/5/25:茅ヶ崎)	
一般の部	
ボードレース男子	優勝 長竹康介 6位 荒井洋佑
オーシャンマン	優勝 長竹康介 6位 荒井洋佑
オーシャンウーマン	4位 京谷真有
ビーチフラッグス	優勝 北矢宗志 2位 植木将人
ジュニアの部:ビーチフラッグス	
低学年の部	優勝 和田拓海 2位 市川圭佑 3位 松本桃子
高学年の部	優勝 斧田颯太 2位 和田海人 3位 森川汐音
中学生男子の部	優勝 小林海 2位 坂本陸 3位 上野凌
中学生女子の部	2位 内堀真倫 3位 坂本佳凧子

ジュニアライフセービング競技会(2008/8/24:片瀬東浜)	
中学生の部	
ビーチフラッグス (中学生男子の部)	優勝 坂本陸 2位 小林海 3位 植松拓也
ビーチフラッグス (中学生女子の部)	3位 内堀真倫

全日本室内選手権2008/5/17-18:横浜	
100Mレスキューメドレー	3位 京谷真有
ラインスロー	3位(長竹・京谷)
S E R C	2位(植木・北矢・長竹・荒井)
4×25Mマネキンリレー男子	5位(和田・荒井・長竹・京谷)



全日本室内選手権(横浜国際プール)



神奈川オープンサーフ(茅ヶ崎海岸)



## 8. イベント委員会レポート

皆様、今年度もたくさんの西浜の活動に御参加いただきありがとうございました。イベント委員会が毎月行うビーチクリーンも今年で9年目となりました。08年度年間延べ人数は1,370人です。最初の頃は10~20人程度、寒いときには私も参加することを躊躇した事もありましたが、諦めず続けたことが現在の参加者を生み出したのではないのでしょうか。

東浜海岸も3月で11回目のビーチクリーンを行いました。まだまだ参加者が少ない状況になっています。09年度では、西浜でビーチクリーンを終えて帰ろうとした方たちなどを引き連れて、参加者を募って行きたいと思います。

後藤千沙美をはじめ、学生の皆さんいつも準備をお手伝い下さりまして、ありがとうございます！また、share surf roomのメンバーの皆さんありがとうございます！皆さんの力がなければ、このビーチクリーンは開催できません。私は、たくさんの方達と協力し合っ、一つのイベントを成功させることが出来る事にとても喜びを感じております。これからもクラブを盛り上げることに協力のほど、よろしくお願いします！

また、江ノ島オーシャンクリーンでは、6月・11月を予定していましたが天候の関係で6月のみで開催になってしまいました。江ノ島の吹き溜まりになっているゴミは、残念なことに1回や2回ではどうしても取りきることが出来ません。皆さんが思っている以上に、非常に深刻な問題になってきています。

先日、神奈川県美化財団が企画した「海岸美化団体交流会」というものに参加してきました。その名の通りビーチクリーンをしている団体の集まりでしたが、年間通してゴミの調査をしている団体が調査内容を発表してくれました。海岸ゴミの殆どが、海とは直接関わらないゴミ、飲食喫煙の生活ゴミ、包装資料のゴミとなっているそうです。何処から来たのかは分かりませんが、日本人が海や川で捨てたり落とした物というのは間違いのないでしょう。無人島などでは、ゴミは溜まりっぱなしで悪臭もすごいとの事。しかし江ノ島西浦付近のゴミは、年2回ですが私達のオーシャンクリーンがあります。ゴミの量にしては、微力かもしれませんがこれからもずっと『海を大切に！地球を大切に！』という気持ちを忘れずに続けて行きたいと思います。この活動で多くの人に影響を与えられたら良いと感じます。

最後に餅つきになりますが、昨年に引き続き大成功になり、素晴らしいスタートが出来ました。土志田さんの斬れた体は町内会の方達にもとても好評で、年々参加者も増えてきています。澤田喜生さんが町内会の架け橋になっていただき、準備なども多くの町内会の方達に御協力いただきました。静岡から来る学生、都内在住の社会人、茨城の奥地から来るミツ、朝早いにも関わらず準備をお手伝いしてくれた皆さんがいたから成功できたと思います。本当にありがとうございました。これからも素晴らしい恒例行事となるように試行錯誤したいと思います。

(文責：イベント委員会 三浦秀樹)



表 9-1 西浜ビーチクリーン開催一覧

2008年度	イベント	参加者数
4月13日	第90回西浜ビーチクリーン	中止
5月11日	第91回西浜ビーチクリーン	150
6月8日	第92回西浜ビーチクリーン	100
7月13日	第93回西浜ビーチクリーン	120
8月10日	第94回西浜ビーチクリーン	220
9月14日	第95回西浜ビーチクリーン	130
10月12日	第96回西浜ビーチクリーン	100
11月9日	第97回西浜ビーチクリーン	150
12月14日	第98回西浜ビーチクリーン	中止
1月11日	第99回西浜ビーチクリーン	150
2月8日	第100回西浜ビーチクリーン	130
3月8日	第101回西浜ビーチクリーン	120
	延べ参加者数	1370

表 9-2 東浜ビーチクリーン開催一覧

2008年度	イベント	参加者数
4月13日	第5回東浜ビーチクリーン	中止
5月11日	第6回東浜ビーチクリーン	30
6月8日		
7月13日		
8月10日		
9月14日		
10月12日		
11月9日	第7回東浜ビーチクリーン	20
12月14日	第8回東浜ビーチクリーン	中止
1月11日	第9回東浜ビーチクリーン	20
2月8日	第10回東浜ビーチクリーン	30
3月8日	第11回東浜ビーチクリーン	20
	延べ参加者数	120

表 9-2 オーシャンクリーン開催一覧

2008年度	イベント	参加者数
6月15日	第8回オーシャンクリーン	80
11月16日	第9回オーシャンクリーン	中止



東浜でのビーチクリーン



ビーチクリーン後の CPR 講習



高校生・DHL 社の社員の皆さんが参加



餅つき大会





## 9. 事務局レポート

今年度も、多くのクラブ員のサポートによってクラブ運営することが出来ました。本当にありがとうございました。そしてスポンサーの方々、協力店の方々、クラブ事業に対して理解し、様々な協力をして頂いた全ての方に感謝いたします。

今年度の事務局は、統括に風間隆宏、器材・渉外担当に原伸輔、器材に三浦秀樹、会計担当に宮崎尊、メールマガジン（通称：カレマガ）担当に早川慶太郎、渉外担当に入谷拓哉の5名体制で事務局業務を行った。事務処理の効率化、体外的な報告などは改善されてきたが、会員向けの情報提供などは、まだ不十分な面がある。クラブ事業が多様化・拡大化してくるとその分、事務作業量も誇大化してくる。専従職員がいない状況の中、いかに“楽しく” “真剣に” 行うかが大きな課題である。

本年度の大きな成果として、藤沢市に市民活動団体提案協働事業として市内の小中学校を対象としたジュニアライフセービング教室（1時間程度の講演）の提案を1年間かけて行い、採択された。次年度は、まず18校で開催予定である。講演会の対象は、中学生は全校生徒、小学生が4-6年生、そして藤沢市小中学生（約3万人）全員に海の安全に関するパンフレットを配布する。これはJLAや神奈川県支部の後押し、さらに今までの多くのメンバーの活動実績が評価された結果である。2003年にNP0にしたときの夢が一つ実現する。協働事業で行う以上、甘えは許されない。NP0法人としての真価が問われることになる。その他幾つかの助成金に申請したが、採択に至らなかった。

そもそも西浜SLSCは、使命である「藤沢地域の水辺の事故ゼロ」にむけて、どこを向いて、誰に向けて運営していくべきなのであるか？ このテーマは理事会でも、ことあるごとに議論になる。ここで、私見であるが、各関係者を顧客という概念を用いて、西浜SLSCと顧客との関係について整理してみたい（図10-1）。我々の事業に対する第1の顧客は、直接の対象者である藤沢地域の水辺に親しむ人すべてである。我々は東西浜海水浴場の来てくれる年間400万人近い海水浴客に対し、海辺の安全環境を提供している。これがクラブとしての最大の事業であり・使命である。また追浜トライアスロンやドラゴンボートレースの参加者も第1の顧客になる。さらにより直接的に安全知識や技術を伝えられる講習会参加者やジュニアメンバーも含まれる。次に第2の顧客として、この活動に共感し、事業に参加してくれるクラブ会員が挙げられる。クラブ会員が、満足感・充実感を持って、よりよい環境で活動できるよう、常に考える必要がある。クラブ員はサービスの受益者になるが、他方ではサービス提供者にもなる。これが民間のスポーツクラブなどと大きく異なる点である。そして第3の顧客として、海水浴場組合や大会・講演会開催者、助成団体・行政などの資金提供者がある。契約をしてその対価を頂くのであるから、事前の打ち合わせから事業実施、事後報告までプロフェッショナルとしての仕事が求められる。これらのそれぞれの顧客に対し満足度を高め、それにより藤沢地域の水辺の事故ゼロを達成することがクラブ運営には、強く求められるのである。



近年、嬉しいことに、LS活動が理解され、近年様々な協力依頼がクラブに届く。また毎年、新しくクラブ会員になってくれる方もいる。しかし事務局を行っている時、それに対し十分に答えられていないジレンマがある。理事・委員長をはじめ多くのクラブ員は、仕事を持っており、当然クラブ活動に専従することはできない。その中でも、自分の時間を捻出して、様々な貢献をしていただいている。仕事・家庭・LSをいかにバランスよく行っていくか自分自身の課題でもある。人生・自然の様々な「波」に対して、どのように向き合っていくか。西浜は正に人生修行の場である。

(文責：事務局担当理事 風間隆宏)

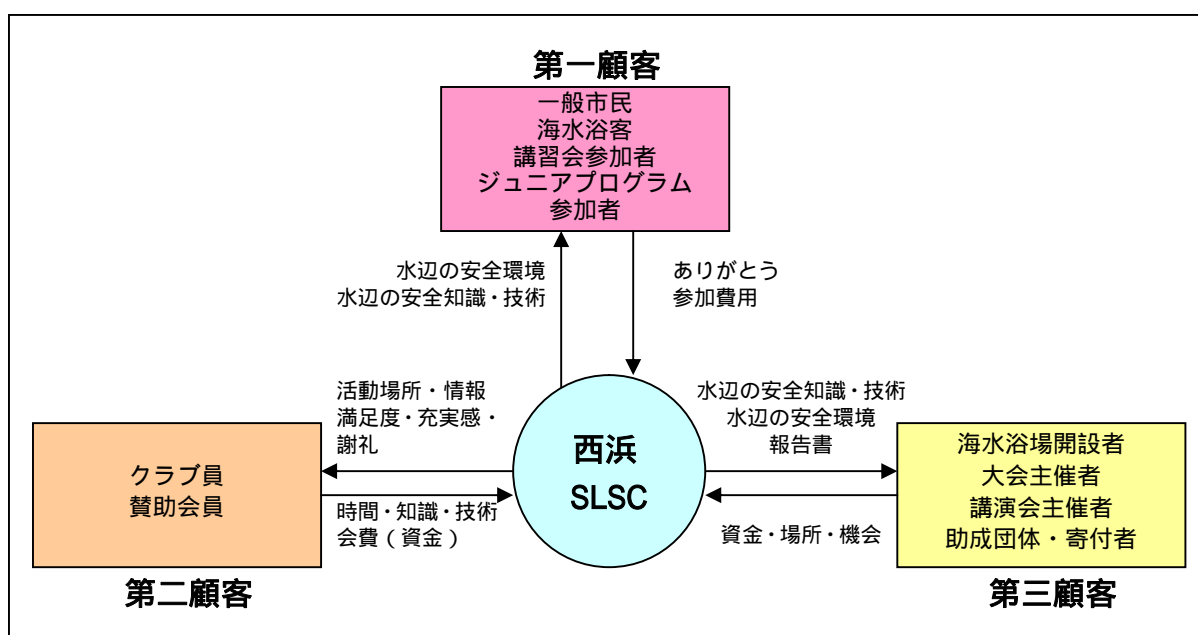


図 10-1 顧客との関係性



藤沢市長へ表敬訪問



JLA スポーツ賞受賞 (遠藤大哉氏)  
(写真提供 JLA)



## 10. サポート企業一覧

多くの企業・お店にクラブの活動を理解して頂き、サポートしていただいています。ありがとうございます。

スポンサー

# BILLABONG®

『BILLABONG』 ジーエスエムジャパン株式会社  
大会ユニフォーム（Tシャツ，ポロシャツ，サーフパンツなど）  
を 全選手とIRBスタッフに提供して頂いております。




# TIMEX®

『TIMEX』 日本シーベルヘグナー株式会社  
スポーツウォッチ，クラブにテントを提供して頂いております。



協力店

**珈琲専門店 イースト**

第1回のビーチクリーンからおいしい珈琲を提供してくれています。

**ビラボン湘南店**

コンペティションユニフォームも協賛して頂いている世界 No.1 サーフブランド！

**カプリチョーザ**

天気のいい日のテラス席は最高，量も多く店員さんもとても親切。

**フリッパーブルー**

鵠沼海岸の商店街にある子供服屋さん。

**ラインバック**

江ノ島電鉄・江ノ島駅のすぐ側，湘南のお土産を買うならここ。

**カイアノア Kai a Noa**

ハワイアンテースト溢れる，食事も会話もいっぱい楽しめるお店です。

**share surf room**

村川新プロ（クラブ理事）のサーフショップ

**アクラブ藤沢**

江ノ電石上駅のすぐ側にあるスポーツクラブ，朝練でも使わせて頂いています。

**株式会社 湘南ライセンス**

小型船舶免許合格率 No.1 優しい指導員の方が分かりやすく教えてくれます。

**GUARD SHOP**

1F はレストランバー，2F はレスキューグッズなどを扱うセレクトショップです。

**Days Kugenuma**

鵠沼海岸にあるレストラン，納会や忘年会でもお世話になっています。